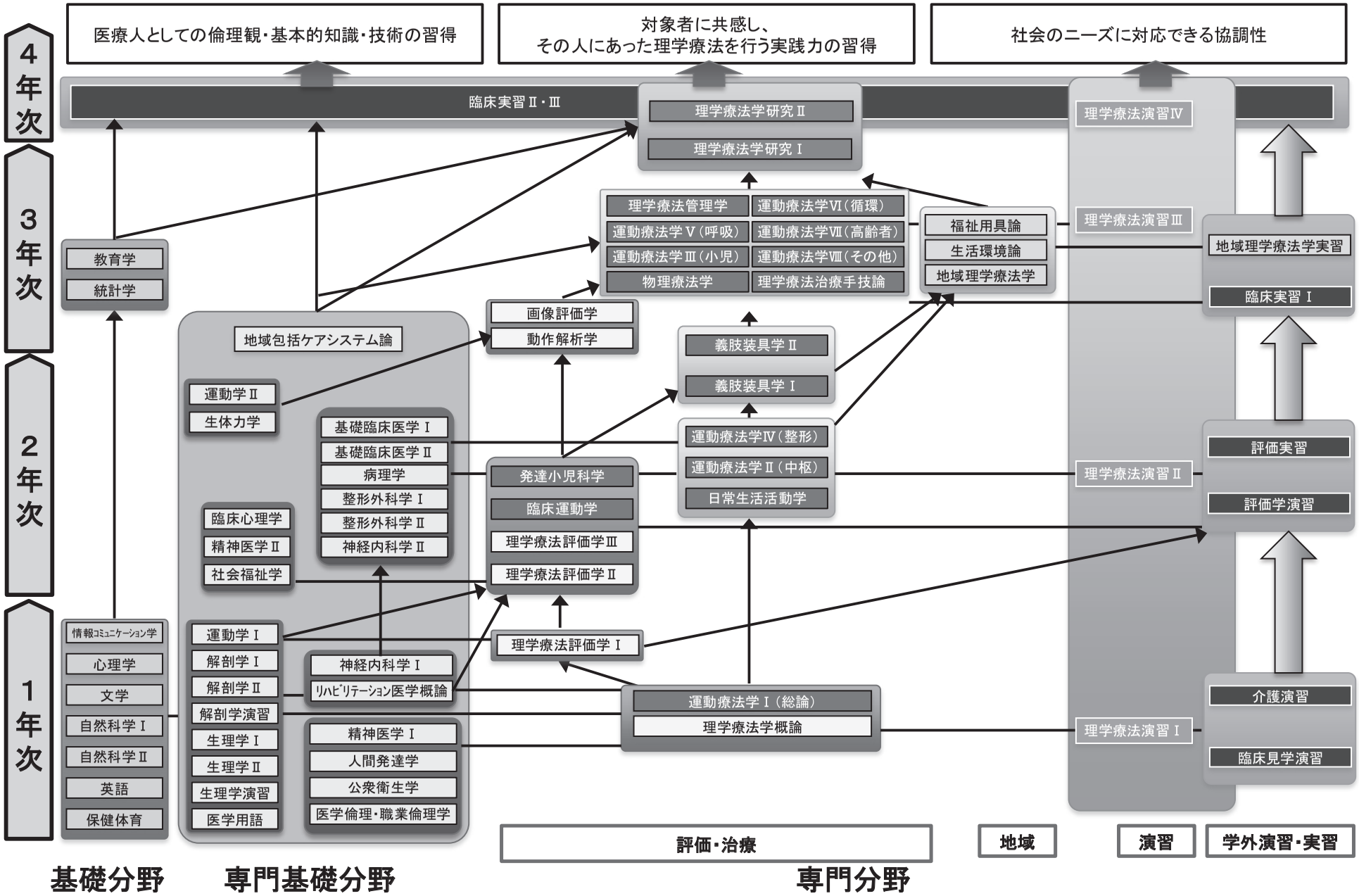
理学療法学科　カリキュラム
〈１・２年次〉

分野	教育内容	科目名	１年次		２年次		３年次		４年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	2	30							2	30		
		文学	2	30							2	30		
		自然科学Ⅰ	2	30							2	30	物理学・数学系	
		自然科学Ⅱ	2	30							2	30	生物学系	
		英語	2	30							2	30		
		保健体育	1	30							1	30	講義・実技	
		教育学					2	30			2	30		
		情報コミュニケーション学	1	30							1	30		
		統計学					2	30			2	30		14
	基礎分野	小計	12	210	0	0	4	60	0	0	16	270		14
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	4	60							4	60		
		解剖学Ⅱ	4	60							4	60		
		解剖学演習	1	30							1	30		
		生理学Ⅰ	4	60							4	60		
		生理学Ⅱ	4	60							4	60		
		生理学演習	1	30							1	30		
		運動学Ⅰ	4	60							4	60		
		運動学Ⅱ			2	30					2	30		
		人間発達学	2	30							2	30		
		生体力学			2	30					2	30		12
	疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	病理学			2	30					2	30		
		神経内科学Ⅰ	2	30							2	30		
		神経内科学Ⅱ			2	30					2	30		
		精神医学Ⅰ	2	30							2	30		
		精神医学Ⅱ			2	30					2	30		
		臨床心理学			2	30					2	30		
		基礎臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	栄養・救急救命・予防	
		基礎臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	薬学・画像	
		臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	外科学・脳神経外科学	
		臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	内科学・小児科学	
		臨床医学Ⅲ			2	30					2	30	一般臨床医学	
		整形外科学Ⅰ			2	30					2	30		
		整形外科学Ⅱ			2	30					2	30		14
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30							2	30		
		社会福祉学			1	15					1	15		
		地域包括ケアシステム論					2	30			2	30	自立支援・就労支援及び多職種連携含む	
		医学倫理・職業倫理学	2	30							2	30		
		公衆衛生学	1	15							1	15		4
	専門基礎分野	小計	33	525	27	405	2	30	0	0	62	960		30

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学概論	2	60							2	60		
		臨床運動学			2	60					2	60		
		発達小児科学			1	30					1	30		
		臨床見学演習	1	30							1	30		6
	理学療法管理学	理学療法管理学					2	60			2	60	職場管理、理学療法教育及び職業倫理含む	2
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	30							1	30		
		理学療法評価学Ⅱ			1	30					1	30		
		理学療法評価学Ⅲ			1	30					1	30		
		動作解析学					1	30			1	30		
		画像評価学					1	30			1	30		
		評価学演習			1	30					1	30		6
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ（総論）	1	30							1	30		
		運動療法学Ⅱ（中枢）			2	60					2	60		
		運動療法学Ⅲ（小児）					1	30			1	30		
		運動療法学Ⅳ（整形）			2	60					2	60		
		運動療法学Ⅴ（呼吸）					1	30			1	30	喀痰等の吸引含む	
		運動療法学Ⅵ（循環）					1	30			1	30		
		運動療法学Ⅶ（高齢者）					1	30			1	30		
		運動療法学Ⅷ（その他）					1	30			1	30		
		理学療法治療手技論					2	60			2	60		
		物理療法学					2	60			2	60		
		義肢装具学Ⅰ			1	30					1	30		
		義肢装具学Ⅱ					1	30			1	30		
		日常生活活動学			1	30					1	30		
		理学療法学研究Ⅰ					1	30			1	30		
		理学療法学研究Ⅱ							1	30	1	30	卒業論文作成含む	
		理学療法演習Ⅰ	1	30							1	30		
		理学療法演習Ⅱ			1	30					1	30		
		理学療法演習Ⅲ					1	30			1	30		
		理学療法演習Ⅳ							2	60	2	60		20
	地域理学療法学	生活環境論					1	30			1	30		
		地域理学療法学			1	30					1	30		
		福祉用具論					1	30			1	30		
		介護演習	1	30							1	30		3
	臨床実習	評価実習			3	120					3	120		
		地域理学療法学実習					1	40			1	40		
		臨床実習Ⅰ					7	280			7	280		
		臨床実習Ⅱ							8	360	8	360		
		臨床実習Ⅲ							8	360	8	360		20
	専門分野	小計	7	210	17	540	26	860	19	810	69	2420		57
		総計	52	945	44	945	32	950	19	810	147	3650		101

理学療法学科カリキュラムツリー



1　年　次

令和３年度　前学期

時　間　割

理学療法学科　１年

		月	火	水	木	金
1	9:00～ 10:30	英語 木下	文学 村田	医学倫理・ 職業倫理学 山野	自然科学Ⅱ 佐藤	理学療法学概論 坂崎
2	10:40～ 12:10	解剖学Ⅱ 受島	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ 医学概論 坂崎	解剖学Ⅰ 加藤, 髙田	保健体育 大潮	生理学Ⅰ 伊藤雅浩
3	13:10～ 14:40	情報ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学 加藤, PT講師		生理学Ⅰ 池田	心理学 林田	運動学Ⅰ 加藤
4	14:50～ 16:20					自然科学Ⅰ 伊藤喜久男

令和３年度　後学期

時　間　割

理学療法学科　１年

		月	火	水	木	金
1	9:00～ 10:30	運動学Ⅰ 加藤, PT講師	生理学Ⅱ 橋本	解剖学Ⅱ 受島	解剖学演習 受島	運動療法学Ⅰ（総論） 坂崎
2	10:40～ 12:10			理学療法演習Ⅰ 加藤, PT講師		人間発達学 小材
3	13:10～ 14:40	解剖学Ⅰ 福島, 明瀬	公衆衛生学 北野	生理学演習 倉岡, 岩永	神経内科学Ⅰ 池田	理学療法学概論 坂崎, 福島, 山内, 加藤
4	14:50～ 16:20		精神医学Ⅰ 宮内		理学療法評価学Ⅰ 加藤, 次山	

※「時間割」は変更されることがあります。

目次：理学療法学科１年次

心理学 …… 11
文　学 …… 11
自然科学Ⅰ …… 12
自然科学Ⅱ …… 13
英　語 …… 14
保健体育 …… 14
情報コミュニケーション学 …… 15
解剖学Ⅰ …… 16
解剖学Ⅱ …… 17
解剖学演習 …… 18
生理学Ⅰ …… 19
生理学Ⅱ …… 21
生理学演習 …… 22
運動学Ⅰ …… 23
人間発達学 …… 24
神経内科学Ⅰ …… 25
精神医学Ⅰ …… 26
リハビリテーション医学概論 …… 27
医学倫理・職業倫理学 …… 28
公衆衛生学 …… 28
理学療法学概論 …… 29
臨床見学演習 …… 31
理学療法評価学Ⅰ …… 32
運動療法学Ⅰ（総論）…… 33
理学療法演習Ⅰ …… 34
介護演習 …… 35

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活　社会の理解	科目名	心　理　学
代表講師	林　田　秀　樹　（所属：くまもと悠心病院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授業概要	現代心理学の概要について基礎から学び、日常を心理学的な視点から考察する。また、対人援助職として基本となる、人間理解を深める。				
到達目標	心理学的知識を身に付け、今後の学習や仕事、社会生活に役立てられるようになる。				
成績評価の方法と基準	講義ごとのレポート（配点３割）と筆記試験（同７割）にて合計６割以上の成績を修めること				
テキスト・教材等	テキスト『心理学入門こころを科学する 10 のアプローチ』、プリント、パワーポイント				

回　数	授　業　内　容
第１回	心理学史／オリエンテーション、心理学とは何か、心理学の歴史と役割
第２回	学習心理学／本能行動、古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習
第３回	生理心理学 (1) ／脳の構造とはたらき、各神経系の構造と機能
第４回	生理心理学 (2) ／中枢神経と末梢神経の活動、感情と情動
第５回	知覚心理学／知覚と感覚、五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）について
第６回	認知心理学／知能、認知、注意、記憶、言語について
第７回	社会心理学／自己と他者や集団とのかかわり、社会的影響
第８回	パーソナリティ心理学 (1) ／パーソナリティとは、パーソナリティテスト（エゴグラムの演習）
第９回	パーソナリティ心理学 (2) ／パーソナリティの分類、形成と発達
第10回	臨床心理学 (1) ／臨床心理学とは、心理査定、心理療法各論
第11回	臨床心理学 (2) ／意識と無意識、防衛機制、欲求と欲求不満
第12回	臨床心理学 (3) ／ストレスと疾病、こころの病について
第13回	発達心理学／発達段階と発達課題
第14回	神経心理学／心と脳、高次脳機能障害、その他の心理学的知見
第15回	試　験

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活　社会の理解	科目名	文　　学
代表講師	村　田　由　美				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授業概要	優れた近・現代の文学作品を通して「命」について考える。 特に後半は病と戦争に密接な作品について学ぶ。				
到達目標	文学作品を通してハンセン病、水俣病について知り、病による差別について考えることができる。また戦争中の人体実験について知り、医療について深く考えられるようになる。				
成績評価の方法と基準	定期試験 70%、レポート 30%				
テキスト・教材等	適宜プリント配布				

回　数	授　業　内　容
第１回	講義概要について説明し、レポートの書き方について学ぶ
第２回	中島　敦「山月記」⑴
第３回	中島　敦「山月記」⑵　　レポート⑴
第４回	熊本時代の漱石についての概略
第５回	夏目漱石「草枕」⑴
第６回	夏目漱石「草枕」⑵
第７回	ハンセン病の歴史
第８回	熊本におけるハンセン病差別事件
第９回	北条民雄の生涯について　　レポート⑵
第10回	北条民雄「いのちの初夜」
第11回	石牟礼道子の「苦海浄土」について
第12回	遠藤周作の生涯について
第13回	遠藤周作「海と毒薬」⑴
第14回	遠藤周作「海と毒薬」⑵
第15回	試　験

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活　社会の理解	科目名	自然科学Ⅰ
代表講師	伊　藤　喜久男　（熊本大学名誉教授）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授業概要	高校までに学習した「数学の基礎」は物理学に不可欠であり、それを再確認する。そのうえで、力学や流体力学の現象を理解できるように授業する。				
到達目標	体の動きに不可欠な力のモーメントの理解を深める。さらに、血圧計や点滴装置などの医療器具の原理を理解する。				
成績評価の方法と基準	毎週実施する小テストの結果を 30%、定期試験の結果を 70%として、総合して評価する。				
テキスト・教材等	プリントしたテキストを配布する				

回　数	授　業　内　容
第１回	実数、有理数、無理数、整数、自然数、円、球、角度（°、rad）、直角三角形、三角関数
第２回	指数、対数、正比例、一次方程式、連立一次方程式
第３回	ギリシャ文字、接頭語（キロ、ミリなど）、 基本単位（長さ、質量、時間）、組立単位の例（速さ、密度）
第４回	スカラー（大きさだけをもつ）、ベクトル（大きさと向きをもつ）、ベクトルの和と差、 ベクトルの掛け算、力の釣り合い
第５回	力のモーメント（トルク）の釣り合い、テコの原理、定滑車と動滑車、重心、 運動を記述する物理量、ニュートンの運動の３つ法則
第６回	万有引力の法則、重力加速度、等速直線運動、等加速度運動、自由落下運動、放物運動
第７回	運動量の変化＝力積、運動量保存の法則、２つの物体の衝突、バットでボールを打つ、 仕事（＝力×距離）、力学的エネルギー保存の法則、熱力学第二法則、 摩擦力、自動車の制動距離、等速円運動、遠心力と見かけの力
第８回	圧力（＝力／面積）、点滴装置
第９回	ピストン（パスカルの原理）、浮力（アルキメデスの原理）
第10回	ベルヌーイの定理、流量一定の式、層流と乱流、血圧計
第11回	周期＝１／振動数、ばねの振動、単振り子
第12回	波の振動の向き（横波、縦波）、波の種類（音、地震波、光）、 波の性質（反射、屈折、回折、全反射）
第13回	凸レンズと凹レンズ、人の眼
第14回	まとめ、試験前の注意
第15回	試　験

学　　科	理学療法学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活　社会の理解	科目名	自然科学Ⅱ
代表講師	佐　藤　栄　治（元 熊本大学理学部）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授業概要	物事には歴史があり、思考のためのデータとして欠かすことができない。 自然科学の一分野の生物学を通して、生物学的基本知識、論理的思考力（ものの考え方）とは何かを考えていく。				
到達目標	人間の体を構成する細胞の説明や、神経や筋肉の構造や機能を筋道だてて説明できる。				
成績評価の方法と基準	定期試験 100%				
テキスト・教材等	『医療・看護系のための生物学』				

回　数	授　業　内　容
第１回	生命（いのち）の大切さを、地球誕生から生命誕生と進化の歴史を紐解きながら学ぶ
第２回	生物分類学から始まる医学（解剖学・生理学・生化学）や化学など自然科学全般がどう関連しているか？それぞれの関連を歴史のなかで学ぶ
第３回	生体構成成分Ⅰ　炭水化物（分類と性質）とは何か
第４回	生体構成成分Ⅱ　脂質（分類と性質）とは何か
第５回	生体構成成分Ⅲ　タンパク質（アミノ酸の分類と性質）とは何か
第６回	生物の基本単位である細胞の構造と機能について学ぶ（細胞膜、核、小胞体、リボソーム、ゴルジ体）
第７回	生物の基本単位である細胞の構造と機能について学ぶ（リソソーム、ミトコンドリア、葉緑体、細胞骨格、細胞外マトリックス）
第８回	細胞膜の構造と機能、細胞膜に存在する受容体とイオンチャネルとは何か
第９回	タンパク質の構造と機能、酵素の分類と性質はどのようなものか
第10回	遺伝子（核酸・DNA）の構造と機能、染色体とDNA複製を学ぶ
第11回	DNA転写機構（DNAからRNA）、翻訳機構（タンパク質合成）を学ぶ
第12回	神経の構造と機能Ⅰ（静止膜電位の発生機構を学ぶ）
第13回	神経の構造と機能Ⅱ（活動電位の発生機構を学ぶ）
第14回	筋肉の分類と筋収縮機構、筋肉はどのようにして収縮するのか
第15回	試　験

学　　科	理学療法学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活　社会の理解	科目名	英　　語
代表講師	木　下　幸　恵				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15回（30時間）
授業概要	専門医療用語の活用に不可欠な基礎学力としての英語読解力をテキスト演習を通じて向上させ、論理的思考の向上を目指す。予習を通じて不明点を明らかにした上で授業でそこを解明していくこと。				
到達目標	単に授業で習ったことを覚えるのではなく、初見の英語を辞書や参考書等を活用して自分なりの理解につなげられるようになることを目標とする。				
成績評価の方法と基準	定期試験 100%				
テキスト・教材等	『Slow & Steady』				

回　数	授　業　内　容		
第1回	Introduction Slow & Steady	テキスト解説 Chapter 1	（各 Chapter の Grammer Check と Writing は各自自習して来る事） 5つの基本文型
第2回	Slow & Steady	Chapter 2	動詞
第3回	Slow & Steady	Chapter 3	進行形・未来形・助動詞
第4回	Slow & Steady	Chapter 4	名詞・冠詞・代名詞
第5回	Slow & Steady	Chapter 5	前置詞・接続詞（Ⅰ）
第6回	Slow & Steady	Chapter 6	形容詞・副詞
第7回	Slow & Steady	Chapter 7	命令文・感嘆文
第8回	Slow & Steady	Chapter 8	不定詞
第9回	Slow & Steady	Chapter 9	動名詞と分詞
第10回	Slow & Steady	Chapter 10	各種疑問文・It の特別用法
第11回	Slow & Steady	Chapter 11	受動態
第12回	Slow & Steady	Chapter 12	完了形
第13回	Slow & Steady	Chapter 13	接続詞（Ⅱ）
第14回	Slow & Steady	Chapter 14	仮定法
第15回	試　験		

学　　科	理学療法学科 1年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活　社会の理解	科目名	保健体育
代表講師	大　潮　八　郎				
授業方法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期：15回（30時間）
授業概要	運動が生理機能に及ぼす影響を医科学的に学習する。				
到達目標	生涯スポーツを意識し、自己体力の保持増進のできる運動処方作成ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	試験（70%）　平常点：目標の到達度（20%）参加意欲（10%）				
テキスト・教材等	必要に応じて資料配布				

回　数	授　業　内　容
第1回	健康と体力：WHOの定義　健康阻害因子　行動体力　防衛体力　精神力
第2回	運動の表現機能：運動器
第3回	運動の持続機能：心肺機能
第4回	運動の調整機能：神経系
第5回	エネルギー供給過程：エネルギー源
第6回	トレーニングと効果：原理原則
第7回	実技：バドミントン：基礎技術練習　ストローク
第8回	〃　基礎技術練習　ルール解説
第9回	〃　ダブルスゲームの技術練習
第10回	〃　〃
第11回	〃　ダブルスゲームとフォーメーション
第12回	〃　ダブルスゲームリーグ戦
第13回	〃　〃
第14回	〃　バドミントン技術の自己評価
第15回	試　験

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活　社会の理解	科目名	情報コミュニケーション学
代表講師	加　藤　孝　則　（所属　熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として病院に勤務していた教員が、患者の治療の経験を活かし、理学療法における必要なコミュニケーションの図り方（患者・家族・多職種に対して）について、講義を行う。				
授業概要	理学療法士として、治療場面において患者や家族、関連職種に対して、必要不可欠であるコミュニケーションの図り方や手法について、演習を交えて学ぶ。				
到達目標	１．社会人としてのマナーや接遇について理解する。 ２．自分の考えや意見を率直に表現して、より良い人間関係を形成することのできるコミュニケーション技法を習得する。 ３．医療現場におけるコミュニケーションの特徴について理解する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（100%）				
テキスト・教材等	『ＰＴ・ＯＴのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド　第２版』・配布資料				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	オリエンテーション ・自己紹介及びコミュニケーション力・コミュニケーションツールについて理解する。	加藤　孝則
第２回	ブラインドワーク・的確な指示を出す方法について理解する。	〃
第３回	アサーショントレーニング ・自己の表現方法について理解する。	〃
第４回	接遇・マナー① ・身だしなみやマナーについて理解する。	山内　一正
第５回	接遇・マナー② ・サービス接遇における演習	〃
第６回	接遇・マナー③ ・サービス接遇における演習	〃
第７回	コーチング ・問題の解決方法や目標の達成方法について理解する。	〃
第８回	医療面接 ・ 患者との接し方について理解する。	加藤　孝則
第９回	自己管理 ・スケジュールを組み立てて自己管理を行うことについて理解する。	〃
第10回	臨床場面でのコミュニケーションスキル① ・理学療法場面における患者対応について理解する。	〃
第11回	臨床場面でのコミュニケーションスキル② ・理学療法場面におけるスタッフ対応について理解する。	〃
第12回	臨床場面でのコミュニケーションスキル③ ・多職種との連携について理解する。	〃
第13回	認知症患者への対応 ・認知症の病態や患者への対応について理解する。	〃
第14回	総括 ・これまで学んできたことを振り返り、コミュニケーション能力について再確認する。	〃
第15回	試　験	

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解 剖 学 Ⅰ
代 表 講 師	福　島　芳　子　（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講　義	単位数	4	学期・回数	前・後期：30 回（60 時間）
授 業 概 要	医学を学ぶ上で基本である解剖学、その中で運動器に関して学習する。運動・動作について専門的知識を必要とする理学療法士には重要な講座である。学習しなければならない量も多い為、予習や繰り返しの復習などテキストを用いながらの家庭での学習も重要である。				
到 達 目 標	運動器(骨･関節･筋)とそれを支配する神経について名称を正しく記憶･理解し､説明することができる。身体運動に関わる身体各部分の構造や機能について理解し、理学療法評価を実施し、理学療法プログラムを作成する上で必要な基礎知識を身につける。 ［個別的行動目標］ １．身体運動に関わる身体各部分の構造や機能について理解し、説明することができる。 ２．身体運動の解剖学的特性を理解し、運動を科学的に説明することができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100％				
テキスト・教材等	『入門人体解剖学』、『プロメテウス解剖学アトラス』、配布資料				

回　数	授　　業　　内　　容	担当講師
第１回	総論：解剖学の基本と系統解剖学への取組み 基本姿勢、身体区分、身体の面、位置、各部位を示す用語	福島 芳子 加藤 孝則
第２回	総論：骨・筋・神経の発生および細胞、組織としての基礎	〃
第３回	骨の分類・骨の構造・血管・神経の分布	〃
第４回	骨の再構築・軟骨の種類・血管・骨軟骨の発生	〃
第５回	頭蓋（顔面頭蓋・脳頭蓋・新生児頭蓋）	〃
第６回	脊柱（基本構造・頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨）	〃
第７回	脊柱（基本構造・頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨）	〃
第８回	胸郭の構成と機能・肋骨・肋軟骨・胸骨	〃
第９回	上肢骨（上肢帯骨・自由上肢・手）	〃
第10回	上肢骨（上肢帯骨・自由上肢・手）	〃
第11回	下肢骨（下肢帯骨・寛骨・骨盤・自由下肢・足）	〃
第12回	下肢骨（下肢帯骨・寛骨・骨盤・自由下肢・足）	〃
第13回	関節・靭帯（上肢帯・自由上肢・手）	〃
第14回	関節・靭帯（脊柱・肋骨・胸骨・下肢帯・自由下肢・足部）	〃
第15回	試　験	
第16回	筋の種類・筋の補助装置・骨格筋の構造・顔面筋・咀嚼筋・舌筋	福島 芳子 明瀬 敬二
第17回	上肢帯から上肢の筋・前腕の筋・手の筋	〃
第18回	上肢帯から上肢の筋・前腕の筋・手の筋	〃
第19回	下肢帯の筋・下肢の筋・股関節・大腿部・下腿部・足部	〃
第20回	下肢帯の筋・下肢の筋・股関節・大腿部・下腿部・足部	〃
第21回	頸部・体幹の筋	〃
第22回	筋系のまとめ	〃
第23回	神経系（１）中枢神経系（脳・脊髄）について理解する。	池田　耕治
第24回	神経系（１）中枢神経系（脳・脊髄）について説明できる。	〃
第25回	神経系（２）末梢神経系（脳神経・脊髄神経・自律神経）について理解する。	〃
第26回	神経系（２）末梢神経系（脳神経・脊髄神経・自律神経）について説明できる。	〃
第27回	神経系（３）自律神経系（交感神経・副交感神経）について理解する。	〃
第28回	神経系（３）自律神経系（交感神経・副交感神経）について説明できる。	〃
第29回	神経系（４）神経伝導路（求心性伝導路・遠心性伝導路）について理解し、説明できる。	〃
第30回	試　験	

学　　科	理学療法学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解 剖 学 Ⅱ
代 表 講 師	受　島　敦　美　（元 熊本大学医学部教授）				
授 業 方 法	講　義	単位数	4	学期・回数	前・後期：30 回（60 時間）
授 業 概 要	人体構成要素のうち、内臓諸器官の構造とそれらの相互関係について、体系的に学習する。また、受精から始まるヒトの胎生初期の形態形成についても学ぶ。				
到 達 目 標	外からは見ることのできないからだの内部構造を知り、病気に対する理解を深めることができる。				
成績評価の方法と基準	試験成績				
テキスト・教材等	『入門人体解剖学』				

回　数	授　業　内　容
第１回	器官と組織：上皮組織
第２回	器官と組織：支持組織
第３回	器官と組織：筋組織、神経組織
第４回	循環器系：循環器系の全体像、血管の組織構造
第５回	循環器系：心臓
第６回	循環器系：動脈の系路①
第７回	循環器系：動脈の系路②
第８回	循環器系：静脈の系路、胎児の循環系
第９回	循環器系：リンパ管とリンパ節、脾臓、胸腺
第10回	循環器系：血球の種類と特徴、造血
第11回	消化器系：消化管の組織構造
第12回	消化器系：口腔、咽頭、食道
第13回	消化器系：胃
第14回	消化器系：小腸
第15回	試　験
第16回	消化器系：大腸
第17回	消化器系：肝臓、胆のう
第18回	消化器系：膵臓
第19回	呼吸器系：鼻腔、喉頭、気管
第20回	呼吸器系：肺、胸膜、縦隔
第21回	泌尿器系：腎臓
第22回	泌尿器系：尿管、膀胱、尿道
第23回	生殖器系：男性生殖器
第24回	生殖器系：女性生殖器
第25回	腹腔：腹膜と腹膜腔
第26回	内分泌系：下垂体、甲状腺、副腎ほか
第27回	感覚器：眼の構造
第28回	感覚器：耳の構造、皮膚の構造
第29回	発生：初期発生
第30回	試　験

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解 剖 学 演 習
代 表 講 師	受　島　敦　美　（元　熊本大学医学部教授）				
授 業 方 法	演　習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	人体の骨格構成と各骨の形態的特徴を直接観察しながら学ぶ。さらにビデオ映像を通して、実際の人体解剖による筋、脈管、神経の配置や形状を学習する。				
到 達 目 標	骨を直接手にして、各部位の形態や特徴および関節の構成などを理解し、図では得られない骨格の実形態を理解することができる。				
成績評価の方法と基準	スケッチ（20%）と試験（80%）				
テキスト・教材等	骨標本、ビデオ				

回　数	授　業　内　容
第１回	骨観察と描写①：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢
第２回	
第３回	骨観察と描写②：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢
第４回	
第５回	骨観察と描写③：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢
第６回	
第７回	骨観察と描写④：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢
第８回	
第９回	骨観察と描写⑤：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢
第10回	
第11回	骨観察と描写⑥：頭蓋、脊柱、胸郭、上肢、下肢
第12回	
第13回	肉眼解剖：上肢と下肢の筋、脈管、神経の実物映像の観察
第14回	
第15回	試　験

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生理学Ⅰ
代表講師	伊藤　雅浩（所属：熊本大学大学院生命科学研究部） 池田　耕治（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	4	学期・回数	前期：30 回（60 時間）
授業概要	さまざまな側面から人間を理解する上で、また、理学療法の対象疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解する上で不可欠である基礎医学的知識を学ぶ。ここでの理解は、疾病・病態等を学ぶ上での重要な基礎となる。 生命現象を細胞・分子レベルで理解できるようになるため、生命体の最小単位である細胞や、人間の生命維持活動に必須の三大分子の構造と機能について、さらに、身体を構成する組織・器官を筋・骨格系（運動器），神経系，内臓諸器官系に大別し，これらの構造と機能について学ぶ。修得する。				
到達目標	1）生理学における医学用語の意味を理解し、正しく記載し、適切に使用することができる。 2）解剖学、運動学等で学んだ知識と関連づけることができる。 3）国家試験における生理学分野の問題を解くことができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（伊藤担当分 25％） （池田担当分 75％）授業毎に形成的評価（60 点未満は合格するまで再試験）※定期試験は実施しない				
テキスト・教材等	『Qシリーズ 新生理学』・印刷資料				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	・総論 人間理解のための生理学についてを理解する。 生理学的現象、生理学的事象、臓器レベルや細胞レベルの仕組みの概要を理解し、説明できる。 理学療法の対象疾患・障害の病態や発生メカニズム等のつながりを理解し、説明できる。	池田　耕治
第２回	・細胞の構造と機能の概要 細胞の基本構造を理解し、説明できる。 細胞内小器官の機能を理解し、説明できる。 ミトコンドリアにおけるＡＴＰ産生を理解し、説明できる。	〃
第３回	・細胞の興奮と伝導の概要（１） 膜電位（静止膜電位）を理解し、説明できる。 活動電位を理解し、説明できる。 不応期を理解し、説明できる。	〃
第４回	・細胞の興奮と伝導の概要（２） 興奮伝導の法則を理解し、説明できる。 神経線維の種類と伝導速度を理解し、説明できる。	〃
第５回	・神経と筋の概要（１） 筋の分類と特徴を理解し、説明できる。 骨格筋の微細構造、収縮機序及び筋収縮のエネルギー源を理解し、説明できる。 反射と反射中枢、脊髄反射及び随意運動の伝導路を理解し、説明できる。	〃
第６回	・神経と筋の概要（２） シナプスの種類、化学シナプスの構造及びシナプス前抑制を理解し、説明できる。 α運動ニューロン、γ運動ニューロン及び筋紡錘等を理解し、説明できる。 理学療法士に求められる要素を理解し、説明できる。	〃
第７回	・末梢神経系の概要（１） 末梢神経の区分を理解し、説明できる。 自律神経系の特徴を理解し、説明できる。	〃
第８回	・末梢神経系の概要（２） 交感神経と副交感神経を理解し、説明できる。 排尿と排便の神経支配を理解し、説明できる。	〃
第９回	・感覚の概要（１） 感覚の尺度及び受容器を理解し、説明できる。 痛覚及び痛覚抑制系を理解し、説明できる。 体性感覚の伝導路及び視床の中継核を理解し、説明できる。	〃
第10回	・感覚の概要（２） 聴覚器、平衡覚、視覚器の構造を理解し、説明できる。 視覚の伝導路及び瞳孔と眼球運動を理解し、説明できる。 味覚と嗅覚を理解し、説明できる。	〃
第11回	・中枢神経系の概要（１） 大脳皮質の機能局在を理解し、説明できる。 大脳基底核の構成と機能を理解し、説明できる。 小脳の構成と機能を理解し、説明できる。	〃

回　数	授　　業　　内　　容	担当講師
第12回	・中枢神経系の概要（２） 大脳辺縁系と情動を理解し、説明できる。 視床下部と本能行動を理解し、説明できる。 脳幹と生命維持中枢を理解し、説明できる。	池田　耕治
第13回	・血液の概要（１） 体液と血液の組成を理解し、説明できる。 血液の酸・塩基平衡を理解し、説明できる。 赤血球の構造を理解し、説明できる。	
第14回	・血液の概要（２） 赤血球の分化・成熟及びヘモグロビンの合成を理解し、説明できる。 顆粒球と単球及びリンパ球の分化・成熟を理解し、説明できる。 抗体と補体及び細胞性免疫と液性免疫を理解し、説明できる。	〃
第15回	・呼吸の概要（１） 呼吸器の構造を理解し、説明できる。 肺気量の区分を理解し、説明できる。 肺におけるガス交換を理解し、説明できる。	〃
第16回	・呼吸の概要（２） 血液による酸素及び二酸化炭素の運搬を理解し、説明できる。 ヘモグロビンの酸素解離曲線を理解し、説明できる。 呼吸の調節を理解し、説明できる。	〃
第17回	・循環の概要（１） 心臓の構造と機能を理解し、説明できる。 心電図を理解し、説明できる。	〃
第18回	・循環の概要（２） 血管の構造、神経支配及び収縮・弛緩を理解し、説明できる。 血圧及び全身の血圧調節を理解し、説明できる。	〃
第19回	・腎臓の概要（１） 腎臓の構造と機能を理解し、説明できる。 糸球体における濾過を理解し、説明できる。	〃
第20回	・腎臓の概要（２） 水及び電解質その他の再吸収を理解し、説明できる。 尿の緩衝作用（酸の排泄）を理解し、説明できる。 体液量と体液浸透圧の調節を理解し、説明できる。	〃
第21回	・エネルギー代謝と体温の概要（１） 生体のエネルギーを理解し、説明できる。 酸素消費量及び呼吸商を理解し、説明できる。	〃
第22回	・エネルギー代謝と体温の概要（２） 代謝率及び基礎代謝量を理解し、説明できる。 最大酸素消費量（最大酸素摂取量）を理解し、説明できる。 体温と発熱を理解し、説明できる。	〃
第23回	内分泌：視床下部－下垂体系によるホルモン分泌調節の概要、オキシトシン、成長ホルモン	伊藤　雅浩
第24回	内分泌：副腎皮質ホルモン、ストレスとホルモン、副腎髄質ホルモン、甲状腺ホルモン	〃
第25回	内分泌：血糖値の調節、Ca濃度の調節、女性ホルモンと性周期、男性ホルモン	〃
第26回	消化と吸収：口腔内消化、胃液分泌の調節、胃液の働き、胃運動の調節	〃
第27回	消化と吸収：十二指腸・膵臓・胆嚢の構造、膵液、胆汁、膵液と胆汁の分泌調節	〃
第28回	消化と吸収：栄養素の吸収、結腸、排便、肝臓の働き、肝臓とHb代謝産物、黄疸	〃
第29回	基礎代謝、エネルギー代謝率、呼吸商、体温	〃
第30回	試　験	

学　　科	理学療法学科 1年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生理学Ⅱ
代表講師	橋　本　弘　司　（所属：熊本大学大学院生命科学研究部）				
授業方法	講　義	単位数	4	学期・回数	後期：30回（60時間）
授業概要	ヒトが物事を認識・判断し行動するとき、どのようなメカニズムが働いているのかを、神経、筋肉を中心に解説します。				
到達目標	神経系、筋肉系の発達、老化、病態、疾患の理解には臓器レベル、細胞レベル、分子レベルの仕組みを知ることが不可欠です。受講後、神経系、筋肉系の基礎メカニズムが説明できるようになり、生体・精神機能の回復や維持、予防の考え方が身に付きます。				
成績評価の方法と基準	定期テストの結果（90%）に、受講態度や小テストの結果（10%）を合算して評価する。				
テキスト・教材等	『Qシリーズ新生理学』				

回　数	授　業　内　容
第1回	人体を構成する細胞および細胞小器官について説明できるようになる。
第2回	神経細胞、筋細胞の機能に関するタンパク質の合成および構造について説明できるようになる。
第3回	静止膜電位、活動電位の発生機序および特徴について説明できるようになる。
第4回	活動電位の興奮電動と電動速度、神経線維の種類について説明できるようになる。
第5回	筋の構造と分類、収縮機序について説明できるようになる。
第6回	筋の収縮様式と発生張力について説明できるようになる。
第7回	平滑筋の構造、シナプスの種類、化学シナプスの構造について説明できるようになる。
第8回	神経伝達う物質と受容体、神経筋接合部における興奮の伝達について説明できるようになる。
第9回	末梢神経の切断と再生、シナプス後電位、反復刺激の影響について説明できるようになる。
第10回	α運動ニューロン、γ運動ニューロン、腱反射について説明できるようになる。
第11回	脊髄反射、随意運動の伝達路、筋電図について説明できるようになる。
第12回	末梢神経の区分、自律神経の特徴について説明できるようになる。
第13回	交感神経と副交感神経による機能亢進、抑制機構について説明できるようになる。
第14回	皮膚感覚器及び痛覚のメカニズムについて説明できるようになる。
第15回	体性感覚の伝導路について説明できるようになる。
第16回	聴覚のメカニズムについて説明できるようになる。
第17回	平衡感覚のメカニズムについて説明できるようになる。
第18回	視覚器の構造について説明できるようになる。
第19回	光の受容過程、網膜における情報処理について説明できるようになる。
第20回	視覚の伝導路について説明できるようになる。
第21回	味覚、嗅覚のメカニズムについて説明できるようになる。
第22回	大脳皮質の機能局在について説明できるようになる。
第23回	大脳基底核の機能局在について説明できるようになる。
第24回	小脳による姿勢と運動制御について説明できるようになる。
第25回	大脳辺縁系の情動、視床下部と本能行動、脳幹の生命維持中枢について説明できるようになる。
第26回	覚醒、睡眠時における脳波について説明できるようになる。
第27回	中枢神経系の伝達物質と受容体、ドーパミン神経と報酬系について説明できるようになる。
第28回	前頭前野の機能について説明できるようになる。
第29回	ストレスに対する反応、記憶と学習、血液脳関門、髄液循環に関して説明できるようになる。
第30回	試　験

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生 理 学 演 習
代 表 講 師	倉　岡　俊　助　（元 熊本保健科学大学教授） 岩　永　書　朋　（所属：熊本機能病院）				
授 業 方 法	演習・講義	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	人体の機能とその測定法について理解する。 神経の活動電位、皮膚感覚、心電図、神経の伝導速度、血圧、呼吸機能について理解できるようになる。				
到 達 目 標	人体の機能とその測定法について理解する。 神経の活動電位、皮膚感覚、心電図、神経の伝導速度、血圧、呼吸機能について理解できるようになる。				
成績評価の方法と基準	レポート（約 50 点）、試験（約 50 点）、他				
テキスト・教材等	プリント（授業前に配付）				

回　数	授　　業　　内　　容	
第１回	演習講義	
第２回	演習講義	
第３回	演習	１）カエル坐骨神経の活動電位 ①刺激強度と複合活動電位の波形変化（峰別れ現象） ②伝導速度（α、β、γ線維の伝導速度測定） ③２相性と単相性波形（双極誘導と単極誘導） ④不応期（相対不応期、絶対不応期） ２）皮膚感覚と重量感覚 ①痛点、触点、温点、冷点の測定 ②空間閾値（２点間閾値）の測定 ③重量感覚（Weber の法則の検証） ３）心電図 ①標準肢誘導、単極肢誘導、胸部誘導 ②波形の計測（心拍数、平均電気軸） ４）ヒト末梢神経の伝導速度測定 ①運動神経の伝導速度測定 ②強さ―時間曲線、クロナキシ― ５）血圧測定 ①水銀式血圧計による血圧測定法 ②安静時と運動後の血圧 ６）呼吸機能測定 ①肺気量分画（１回換気量、肺活量、予備吸気量など）の測定 ②努力性呼気曲線（１秒率、最大呼気中間流量など） ③フローボリュム曲線
第４回	〃	
第５回	〃	
第６回	〃	
第７回	〃	
第８回	〃	
第９回	〃	
第10回	〃	
第11回	〃	
第12回	〃	
第13回	〃	
第14回	〃	
第15回	試　験	

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	運動学Ⅰ
代表講師	加　藤　孝　則　（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	4	学期・回数	前・後期：30 回（60 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として病院に勤務していた教員が、患者の評価・治療等の経験を活かし、理学療法における必要な体の仕組みの基礎知識について講義を行う。				
授業概要	前期では、骨、筋、関節、神経など、運動器と感覚器の構造と機能を解剖学的、生理学的に人間の身体運動に関する基礎を学ぶ。後期では演習を通して、正常歩行における動作観察の方法、姿勢及び立位バランスの評価、最大下負荷試験にて呼吸循環機能について学ぶ。				
到達目標	１運動学の概要について理解する。 ２生体の構造と機能の内、主として運動に関与する項目について概略を理解する。 ３運動のエネルギー代謝、呼吸、循環に及ぼす影響について理解する。				
成績評価の方法と基準	前期：筆記試験（60%）、確認試験（40%）後期：筆記試験（70%）、レポート（30%）				
テキスト・教材等	『基礎運動学』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	領域、歴史、現状と展望、運動の捉え方について理解して、説明できる。	加藤　孝則
第２回	力学と身体運動、身体運動の面と軸、運動の表し方について理解して、説明できる。	〃
第３回	剛体に働く力を理解して、説明できる。	〃
第４回	運動器の構造と機能（骨の構造）について理解して、説明できる。	〃
第５回	運動器の構造と機能（骨の機能）について理解して、説明できる。	〃
第６回	運動器の構造と機能（関節の構造）について理解して、説明できる。	〃
第７回	運動器の構造と機能（関節の機能）について理解して、説明できる。	〃
第８回	細胞の構造、細胞内での化学反応、細胞膜の興奮について理解して、説明できる。	〃
第９回	神経線維の興奮伝導、神経線維の種類について理解して、説明できる。	〃
第10回	中枢神経系（大脳機能）について理解して、説明できる。	〃
第11回	中枢神経系（脳幹部～脊髄）について理解して、説明できる。	〃
第12回	運動器の構造と機能（腱、靭帯の構造と機能、骨格筋）について理解して、説明できる。	〃
第13回	運動器の構造と機能（骨格筋・反射・姿勢・歩行）について理解して、説明できる。	〃
第14回	栄養とエネルギー代謝（消化と吸収、栄養素、エネルギー代謝）及び運動とエネルギー代謝（運動と呼吸、運動時の循環制御）について理解して、説明できる。	〃
第15回	試　験	
第16回	オリエンテーション（演習グループ・実施内容及び実施時の注意事項の説明）	加藤　孝則
第17回	代表的な運動解析手法の原理とその実際を経験することにより、 それぞれのプロトコルを学ぶと共に応用可能性について考える。 【演習項目】 ①歩行分析②立位姿勢・重心動揺 ③運動負荷試験（嫌気性代謝閾値）	加藤　孝則 山内　一正 次山　航平
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回	総　括	加藤　孝則
第30回	試　験	

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	人 間 発 達 学
代 表 講 師	小　材　美沙紀　（臨床心理士）				
授 業 方 法	講　義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	誕生から死まで、人間がどのような発達過程をたどるのか学習する。 生物心理社会的視点から人間の発達過程をながめ、それぞれの発達段階で生じやすい課題と支援について考える。				
到 達 目 標	発達の知識を臨床や支援の場で活用することを念頭に、「正常な」発達とは何か、そこからの逸脱によって生じる課題、発達上の課題への支援について理解する。				
成績評価の方法と基準	定期試験（25%）、レポート（25%）、出席（25%）、授業参加態度（25%）から総合的に評価する。				
テキスト・教材等	『リハビリテーションのための人間発達学』				

回　数	授　　業　　内　　容
第１回	イントロダクション、人間発達学がどのような学問か理解する。
第２回	胎児期の身体発達と感覚器官の働きを知る。正常な発達を阻害する要因について学ぶ。
第３回	新生児期の身体発達を学ぶ。養育者に生じる生活上の変化とそれへの適応の重要性を理解する。
第４回	乳児期の身体発達、運動の発達について学ぶ。発達を支える遊びの特徴や養育者の関わりについて理解する。
第５回	幼児期の身体発達、運動発達、社会性の発達を学習する。
第６回	幼児期の遊びの特徴と遊びの発達における意義について学習する。 養育者のしつけが、幼児期の発達にどのように影響するか考え、理解する。
第７回	児童期の身体発達、運動発達、社会性の発達について学習する。
第８回	学校生活が児童期の発達に与える影響、またその発達的意義を理解する。 神経発達障害の概要を学び、それによる生活上の困り感について具体的に考える。
第９回	青年期前期の身体発達の特徴を理解し、対人関係の捉え方の変化や情緒の変化について学習する。 青年期前期の発達の特徴をふまえた関わり方について考える。
第10回	青年期の発達課題であるアイデンティティの確立と、そこから生じる課題について学習する。
第11回	成人期前期の発達について学習する。家族の形成や、職業生活への適応について学び、その過程で生じる課題と望ましい支援のあり方について考える。
第12回	成人期後期の家庭生活、職業生活における社会性について学習する。 成人期後期に生じる発達上の課題と支援について考える。
第13回	老年期の身体発達、感覚器官、運動機能、認知機能の変化について学習する。
第14回	老年期の生きがいの重要性、発達的意義について学習する。老年期の特徴をふまえた関わり方について考える。誕生から死までの発達課題を整理し、これまで学習したことをふり返り、まとめる。
第15回	試　験

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	神経内科学Ⅰ
代表講師	池　田　耕　治　（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授業概要	神経内科学では、解剖学、生理学及び運動学で学んだ内容を発展させ、神経系に発生する主要な疾患等の概要、症状、検査、治療、予後などについて解説する。神経系の疾患等はリハビリテーション対象となるものが多く、国家試験においても必須科目である。				
到達目標	1）神経内科学における医学用語の意味を理解し、診察所見や検査所見について、正常な状態と病的状態を区別することできる。 2）主要な神経内科疾患について、その病態、疫学、症状、所見、治療、予後を理解し、説明できる。 3）解剖学、生理学、運動学、公衆衛生学等で学んだ知識を神経内科学に関連づけることができる。 4）国家試験における神経内科学分野の問題を解くことができる。				
成績評価の方法と基準	授業毎に形成的評価（60 点未満は合格するまで再試験）※定期試験は実施しない				
テキスト・教材等	『リハビリテーションのための神経内科学の学び方（はじめての講義）』、 『病気がみえる〈vol.7〉脳・神経』				

回　数	授　業　内　容
第１回	・神経内科学総論 神経系の構造と機能（中枢神経系及び末梢神経系）についてを理解する。
第２回	・神経症候学の概要（１） 意識障害、頭蓋内圧亢進症状、髄膜刺激症状及び脳ヘルニアを理解し、説明できる。
第３回	・神経症候学の概要（２） 脳死、植物状態、閉じ込め症候群、瞳孔異常を理解し、説明できる。
第４回	・高次脳機能障害の概要 失語症を理解し、説明できる。 失行症を理解し、説明できる。 失認症を理解し、説明できる。
第５回	・記憶及び知能障害の概要 記憶障害を理解し、説明できる。 知能障害（精神遅滞、認知症）を理解し、説明できる。
第６回	・運動障害の概要（１） 筋委縮を理解し、説明できる。 筋緊張を理解し、説明できる。 反射（腱反射、病的反射）を理解し、説明できる。
第７回	・運動障害の概要（２） 筋力評価を理解し、説明できる。 錐体外路系（不随意運動）を理解し、説明できる。 運動失調を理解し、説明できる。
第８回	・感覚障害の概要 感覚（体性感覚）の生理学的基礎を理解し、説明できる。 体性感覚の分類及び伝導路を理解し、説明できる。 感覚障害のパターンを理解し、説明できる。
第９回	・自律神経障害の概要 自律神経の支配を理解し、説明できる。 自律神経症候を理解し、説明できる。
第10回	・機能性障害の概要 てんかんと痙攣を理解し、説明できる。 頭痛を理解し、説明できる。 めまいを理解し、説明できる。
第11回	・姿勢及び歩行障害の概要 姿勢異常を理解し、説明できる。 起立・歩行障害を理解し、説明できる。
第12回	・球麻痺の概要 球麻痺を理解し、説明できる。 仮性球麻痺を理解し、説明できる。
第13回	・脳神経障害の概要 脳神経の構造と機能を理解し、説明できる。 脳神経麻痺を理解し、説明できる。
第14回	・補助診断の概要 画像診断を理解し、説明できる。 脳波を理解し、説明できる。 筋電図を理解し、説明できる。
第15回	まとめ

学　　科	理学療法学科 1年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	精神医学Ⅰ
代表講師	宮　内　大　介　（所属：くまもと悠心病院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	後期：15回（30時間）
授業概要	教科書、プリントを用いて講義を行い、問題演習にて講義のふりかえりを行う。 症状等については動画視聴や実際の症例の紹介なども行う予定。				
到達目標	精神科疾患の特徴、治療、リハビリテーションへの理解				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》精神医学』				

回　数	授　業　内　容
第1回	精神障害の分類
第2回	精神機能の障害・症状
第3回	診断と評価
第4回	脳器質性精神障害、認知症
第5回	症状性精神障害
第6回	精神作用物質による障害
第7回	てんかん
第8回	統合失調症
第9回	気分障害
第10回	神経症、ストレス関連疾患
第11回	発達障害
第12回	精神科治療・リハビリテーション
第13回	まとめ①
第14回	まとめ②
第15回	試　験

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	科目名	リハビリテーション医学概論
代表講師	坂　崎　浩　一　（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授業概要	リハビリテーションの概要について理解を深めると共に、リハビリテーション医学にかかわる理学療法士として必要な基礎知識、評価の考え方、代表的疾患・外傷の理解とそれぞれのリハビリテーションのあり方について学ぶ。毎回の授業は、予習としての事前課題、講義、復習としての課題確認シートとノート提出をもって進める。				
到達目標	・リハビリテーション医学の理念と障害について理解し、説明することができる。 ・リハビリテーション医学に関する基礎学について理解し、説明することができる。 ・リハビリテーション医学における評価と対象となる疾患の概要について、理解し説明することできる。				
成績評価の方法と基準	定期試験（80％）、ミニテスト・ノート提出状況（20％）				
テキスト・教材等	『標準リハビリテーション医学』、配布資料、事前学習課題				

回　数	授　業　内　容
第１回	・リハビリテーションの理念について理解する。 ・医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション及び地域リハビリテーションについて理解する。
第２回	・障害のとらえ方 国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）について理解する。 障害の受容（プロセス）についてについて理解する。
第３回	・リハビリテーションにおける基礎学（運動生理学領域） 筋の Type、筋収縮とエネルギー源について理解する。
第４回	・リハビリテーションにおける基礎学（運動学領域） 筋収縮の様式（等尺性収縮･等張性収縮）、四肢の運動、姿勢について理解し表現できるようになる。
第５回	・リハビリテーションにおける障害学（運動器障害） 筋、骨、関節の損傷、ロコモティブシンドローム、サルコペニアについて理解する。
第６回	・リハビリテーションにおける障害学（神経系障害） 末梢神経系の損傷、中枢神経系の損傷の概要について理解する。
第７回	・リハビリテーションにおける障害学（廃用症候群） 廃用症候群の基礎（症状等）について理解する。
第８回	・評価における基本事項の理解 関節可動域測定（ゴニオメーターの使い方・基本軸、移動軸）、筋力（6 段階評価の捉え方）について理解する。
第９回	・評価における基本事項の理解 上肢機能、バランス検査、ADL 評価の概要を理解する。
第10回	・評価における基本事項の理解 認知症、意識障害（JCS）の評価の概要について理解する。
第11回	・代表的疾患に関する概要の理解 脳血管障害の病態像とリハビリテーションの流れについて理解する。
第12回	・代表的疾患に関する概要の理解 脊髄損傷の病態像とリハビリテーションの流れについて理解する。
第13回	・代表的疾患に関する概要の理解 パーキンソン病、筋ジストロフィー症の病態像とリハビリテーションの流れについて理解する。
第14回	・リハビリテーションチームの理解 チームアプローチの重要性について理解する。 リハビリテーションチームに関わる主な職種について理解し説明できるようになる。
第15回	試　験

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	科目名	医学倫理・職業倫理学
代表講師	山　野　克　明　（所属：熊本保健科学大学）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授業概要	医学倫理および職業倫理の基礎について、理学療法士に関係する事例を通して講義と演習を進めていきます。				
到達目標	1. 理学療法士を取り巻く医療倫理の問題ならびに臨床倫理の問題について知る。 2. 倫理的問題を解決するための原則を理解する。 3. 理学療法士の職業規範について説明できる。 4. 倫理的問題に対し皆が納得できる解決策を、その根拠とともに説明できる。				
成績評価の方法と基準	定期試験（100%）				
テキスト・教材等	『臨床倫理入門』（その他、必要に応じてプリントを配布する）				

回　数	授　業　内　容
第１回	尊厳・QOL・徳倫理・パーソンセンタードケア
第２回	患者の権利とは（生命倫理の四原則）
第３回	患者の自己決定とは（インフォームド・コンセント）
第４回	真実告知・パターナリズム
第５回	プライバシー・個人情報・守秘義務
第６回	身体拘束・行動制限
第７回	摂食嚥下障害の倫理
第８回	医療資源の配分
第９回	終末期医療（安楽死・尊厳死・DNAR）
第10回	生殖技術・遺伝性疾患における倫理
第11回	職業倫理学とは何か？（専門職とチーム医療の倫理について考える）
第12回	医療職の倫理綱領と職業倫理指針（ガイドライン）について考える（１）
第13回	医療職の倫理綱領と職業倫理指針（ガイドライン）について考える（２）
第14回	事例と四分割法を用いた倫理コンサルテーションの経験
第15回	試　験

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	科目名	公 衆 衛 生 学
代表講師	北　野　隆　雄　（元 熊本大学大学院生命科学研究部）				
授業方法	講　義	単位数	1	学期・回数	後期：９回（18 時間）
授業概要	公衆衛生学の講義を通じて予防医学の概念を理解し、その実践方法の基本的な考え方を理解する。 併せてわが国の公衆衛生行政のあり方についても理解を深める。				
到達目標	健康の概念について理解し説明できる。 予防医学の考え方を理解し説明できる。				
成績評価の方法と基準	定期試験				
テキスト・教材等	『シンプル衛生 公衆衛生学 2021』				

回　数	授　業　内　容
第１回	公衆衛生学概論：公衆衛生学とは
第２回	保健統計：健康指標と人口統計
第３回	疫学：疫学総論
第４回	主な疾病と予防：疾病予防と健康管理
第５回	環境保健：環境因子と疾病
第６回	健康生活の実践（Ⅰ）：日常生活と健康
第７回	健康生活の実践（Ⅱ）：社会生活と健康
第８回	国際保健：国際保健の課題と目標
第９回	試　験

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	基礎理学療法学	科目名	理学療法学概論
代表講師	坂　崎　浩　一　（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前・後期：30 回（60 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として病院に勤務していた教員が、患者の評価、治療、生活支援等の経験を活かし、理学療法の基本事項について講義するとともに、対象となる代表的疾患・外傷に対する理学療法の展開について解説する。				
授業概要	前期は、理学療法（士）の法的位置づけ、対象となる主な疾患や外傷、運動療法・物理療法の概要、チーム医療について学ぶ。毎回の授業は、予習としての事前課題、講義、復習としての課題確認シートとノート提出をもって進める。 後期は、代表的疾患としての中枢神経疾患・整形外科疾患・呼吸循環系疾患・高齢者及び地域における理学療法の展開について学ぶ。				
到達目標	・理学療法の概念・法的位置付け・対象・方法について説明できる。 ・理学療法の主たる対象及び地域で展開される基本的理学療法について説明できる。				
成績評価の方法と基準	前期：中間試験（30％）、課題ノート提出状況（10％）、前期試験（60％） 後期：後期試験（100％）（坂崎 20％・福島 20％・加藤 30％・山内 30％）				
テキスト・教材等	配布資料				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	・理学療法士を目指す学生に求められること（コミュニケーションと接遇）についてグループワークを通して考えることができる。	坂崎浩一
第２回	・リハビリテーション医学の概念について理解する。 ・リハビリテーションに影響を与えた理念・思想ついて理解する。 ・リハビリテーション医療における理学療法の位置付けを理解する	〃
第３回	・関係する法律（理学療法士法及び作業療法士法）について理解する。 理学療法の定義について理解する 理学療法士の免許について理解する 守秘義務について理解する	〃
第４回	・関係する法律（理学療法士法及び作業療法士法）について理解する。 名称独占と業務独占について理解する。 「理学療法士及び作業療法士法」の定義と現状とのちがいを理解する。	〃
第５回	・関係する法律（個人情報保護法）について理解する。 個人情報の定義、匿名化、同意について理解する。 臨床実習における留意点について理解する。 研究活動における留意点について理解する。	〃
第６回	・中間試験 ・理学療法の対象となる主な疾患の概要について理解する。	〃
第７回	・理学療法評価 障害の把握と問題点の抽出のプロセスについて理解する。 ICIDH と ICF の概要について理解する。	〃
第８回	・理学療法の実際 運動療法の目的、禁忌について理解する。	〃
第９回	・理学療法の実際 基本的な運動療法を体験する（関節可動域運動）。（実技）	〃
第10回	・理学療法の実際 物理療法の種類、目的、禁忌について理解する。	〃
第11回	・理学療法の実際 代表的な物理療法を体験する（ホットパック、マイクロウェーブ、低周波、超音波、牽引）。（実技）	〃
第12回	・理学療法の実際 障害者の ADL（食事・排泄・更衣・整容・入浴　等）について体験する。	〃
第13回	・チーム医療 関連職種の業務内容について理解する。	〃
第14回	・チーム医療 関連職種の業務内容について理解する。	〃
第15回	試　験	

回　数	授　　業　　内　　容	担当講師
第16回	・中枢神経疾患に対する理学療法 　脳卒中の理学療法の考え方とその展開の仕方の理解する（病態像）。	坂崎浩一
第17回	・中枢神経疾患に対する理学療法 　脳卒中の理学療法の考え方とその展開の仕方の理解する（評価）。	〃
第18回	・中枢神経疾患に対する理学療法 　脳卒中の理学療法の考え方とその展開の仕方の理解する（運動療法、ADL 指導等）。	〃
第19回	・整形外科疾患に対する理学療法 　骨関節疾患、及び脊髄損傷等、整形外科疾患に対する理学療法の考え方とその展開の仕方を理解する。	福島芳子
第20回	・整形外科疾患に対する理学療法 　骨関節疾患、及び脊髄損傷等、整形外科疾患に対する理学療法の考え方とその展開の仕方を理解する。	〃
第21回	・整形外科疾患に対する理学療法 　骨関節疾患、及び脊髄損傷等、整形外科疾患に対する理学療法の考え方とその展開の仕方を理解する。	〃
第22回	・小児領域の疾患に対する理学療法 　脳性麻痺、発達障害、また、発達に伴う小児特有の疾患に対する理学療法の考え方とその展開仕方を理解する。	山内一正
第23回	・小児領域の疾患に対する理学療法 　脳性麻痺、発達障害、また、発達に伴う小児特有の疾患に対する理学療法の考え方とその展開仕方を理解する。	〃
第24回	・呼吸器疾患に対する理学療法 　拘束性・閉塞性換気障害等、呼吸器疾患に対する理学療法の考え方とその展開の仕方を理解する。	加藤孝則
第25回	・呼吸器疾患に対する理学療法 　拘束性・閉塞性換気障害等、呼吸器疾患に対する理学療法の考え方とその展開の仕方を理解する。	〃
第26回	・循環器疾患に対する理学療法 　心筋梗塞等、虚血性心疾患に対する理学療法の考え方とその展開の仕方を理解する。	〃
第27回	・循環器疾患に対する理学療法 　心筋梗塞等、虚血性心疾患に対する理学療法の考え方とその展開の仕方を理解する。	〃
第28回	・高齢者に対する理学用法 　加齢に伴う退行性障害対する理学療法の考え方とその展開の仕方を理解する。	山内一正
第29回	・地域における理学療法 　障害者・高齢者を地域で支えるための理学療法の考え方とその展開の仕方を理解する。	〃
第30回	試　験	

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	基礎理学療法学	科目名	臨床見学演習
代表講師	加　藤　孝　則　（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員及び臨床実習指導者が、理学療法士の業務内容並びに臨床実習施設におけるリハビリテーションまた理学療法部門の位置づけ等を具体的に把握できるように講義し、実際に臨床場面で経験する。				
授業概要	リハビリテーションの専門職である理学療法士の医療場面における業務内容について、学内及び臨床実習施設において演習を通して学ぶ。				
到達目標	可能な限り早期に将来自己の職業となる理学療法士の業務内容並びに臨床実習施設に於けるリハビリテーションまた、理学療法部門の位置づけ等を具体的に把握することにより、学内教育に対して積極的に取り組ませることを目的とする。				
成績評価の方法と基準	・ポートフォリオ評価（50%）　・筆記記述試験（50%）				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要綱　他				

期　間	授　業　内　容	担当講師
１週間	期間：2021 年５月 17 日（月）～５月 21 日（金）（学外実習：2021 年５月 18 日～５月 20 日） 実施方法：介助法等の学内演習後、熊本市内およびその近郊の施設に、１施設１名～３名の学生にて実習。 学習内容： １．理学療法部門をはじめ、作業療法、言語療法、ケースワーカー部門などのリハビリテーション関連部門の業務内容を把握する。 ２．病院施設全体の機能並びにその中における理学療法部門の位置づけを把握する。 ３．障害がどの様なものかを知り、簡単な介護などができることが有れば体験する。 ４．多くの患者様やスタッフの方々と接し、自己の資質の向上を図る。	学内講師 及び 臨床実習 指導者

学　　科	理学療法学科 1年次	教育 内容	理学療法評価学	科目名	理学療法評価学Ⅰ
代表講師	加　藤　孝　則　（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義及び実技	単位数	1	学期・回数	後期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、理学療法の処方から理学療法終了までの流れに関する基礎知識、観察・情報収集・面接に対する基本知識、形態測定、関節可動域測定に対する基礎知識について講義し、指導する。				
授業概要	理学療法評価に必要な知識と技法を身に着けるため、評価の目的を項目ごとに理解を深め、形態測定や関節可動域測定で使用するメジャー・角度計の取り扱いについて、実技を中心に学ぶ。				
到達目標	・理学療法評価における基本知識と，観察・情報収集・面接に対する基本知識と方法を習得する。 ・形態測定と関節可動域測定の検査・測定技術を習得する。				
成績評価の方法と基準	・筆記試験（70%）・実技試験（30%）				
テキスト・教材等	・『標準理学療法専門 理学療法評価学』，配付資料，骨標本，角度計，メジャーなど				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第1回	・理学療法評価・評価の意義と構成要素，治療までのプロセスを理解する。 ・評価に対する心構えや基本的姿勢を理解する	加藤孝則 次山航平
第2回	・観察や面接の目的，方法，情報収集しなければならない内容を理解する。	〃
第3回	・姿勢評価の目的と方法を理解し，実施することができる。 ・上肢の周径・肢長の目的，方法，手順を理解し，実施することができる。	〃
第4回	・姿勢評価の目的と方法を理解し，実施することができる。 ・上肢の周径・肢長の目的，方法，手順を理解し，実施することができる。	〃
第5回	・下肢の周径・肢長の目的，方法，手順を理解し，実施することができる。 ・形態測定で得られたデータの意味を理解し，説明できる。	〃
第6回	・関節可動域の目的，測定方法と手順，注意事項，記録方法などを理解する。 ・関節可動域制限を起こす因子について理解する。	〃
第7回	・肩甲帯・肩関節の構造及び運動学的特徴，測定方法，手順，注意点を理解し，模倣することができる。	〃
第8回	・肘関節・前腕・手関節・手指の構造及び運動学的特徴，測定方法，手順，注意点を理解し，模倣することができる。	〃
第9回	・脊柱の構造及び運動学的特徴，測定方法，手順，注意点を理解し，模倣することができる。	〃
第10回	・股関節の構造及び運動学的特徴，測定方法，手順，注意点を理解し，模倣することができる	〃
第11回	・膝・足関節の構造及び運動学的特徴，測定方法，手順，注意点を理解し，模倣することができる。	〃
第12回	・股・膝・足関節の構造及び運動学的特徴，測定方法，手順，注意点を説明し，実施することができる。	〃
第13回	・関節可動域測定・形態測定が実施可能で，測定したデータを記録し，意味を解釈することができる。	〃
第14回	・関節可動域測定・形態測定が効率よく実施可能で，測定したデータを記録し，意味を解釈することができる。	〃
第15回	試　験	

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	運動療法学Ⅰ（総論）
代表講師	坂　崎　浩　一　（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士として病院に勤務していた教員が、患者の評価、治療、生活支援等の経験を活かし、運動療法の適応と禁忌、身体運動の基礎知識を踏まえ、関節可動域運動、筋力増強運動、持久力運動等の基本的運動療法や起居動作、車いす操作、杖歩行について指導する。				
授業概要	関節可動域運動、筋力・持久力運動、協調性運動などの基本的運動療法の理論と手技を学ぶ。毎回の授業は、予習としての事前課題、講義及び実技、復習としての課題確認シートとノート提出をもって進める。				
到達目標	・運動療法の目的と禁忌について理解し説明できる。 ・肢位・運動の方向・筋の収縮と弛緩等を理解し、説明できる。 ・基本的運動療法に関して、その理論を理解し、学生対象に手技を実施することができる。 ・代表的運動療法機器について、その目的と使用方法について理解し、使用することができる。				
成績評価の方法と基準	中間試験（実技試験含む）（30％）、課題ノート提出状況（10％）、後期試験（60％）				
テキスト・教材等	『理学療法テキストⅢ 運動療法Ⅰ』および配布資料				

回　数	授　業　内　容
第１回	・運動療法の歴史について理解する。 ・運動療法の目的と禁忌について理解する。 ・血圧、脈拍の測定方法について理解し、説明できる。
第２回	・基本的運動（運動の分類） ・姿勢（背臥位、立位等）と運動（屈曲－伸展、外転 - 内転、外旋 - 内旋 等）について説明できる。 ・他動運動、自動介助運動、自動運動、抵抗運動について説明できる。
第３回	・基本的運動（運動の分類） ・等尺性収縮、等張性収縮（遠心性収縮・求心性収縮）、安静時弛緩、収縮時弛緩について説明できる。
第４回	・復習テスト ・関節可動域運動 　関節の基本構造について理解する。
第５回	・関節可動域運動の実際（下肢）（実技） 　足部の持ち方、体の使い方に留意しながら、下肢の関節可動域運動を実施できる。
第６回	・関節可動域運動の実際（下肢）（実技） 　トーマステスト、尻上がり現象を理解し、短縮筋に対する伸張運動を実施できる。
第７回	・関節可動域運動の実際（上肢）（実技） 　肩甲上腕リズムを理解すると共に、上肢の持ち方、体の使い方に留意しながら、肩・肘の関節可動域運動を実施できる。テノデーシスアクションを理解するとともに、手・手指の関節可動域運動を実施できる。
第８回	・復習テスト ・筋力増強運動 　筋収縮のメカニズム、筋線維の種類と特性（速筋・遅筋）、筋力増強の過程、Overload・特異性・可逆性の原則を説明できる。
第９回	・筋力増強運動　（実技） 　バイオフィードバック、懸垂装置、NK テーブル、等速運動機器及び徒手にて、筋力レベルに応じた筋力増強運動を実施できる。
第10回	・筋力増強運動（実技） 　筋の収縮形態の違いによる筋力増強運動について代表的な筋力増強運動を理解する。 　マッスルセッティング、SLR を実施できる。
第11回	・持久力運動 　持久力に必要な事項（最大酸素摂取量、無酸素性閾値、運動強度等）について理解するとともに、適切な運動強度を算出することができる。
第12回	・協調運動 協調性運動障害の原因、運動の原則について理解すると共に、フレンケル体操、弾性緊迫帯、重量負荷、PNF の概要について説明することができる。
第13回	・人の動きと姿勢（実技） ・重心と支持面の関係を理解し、寝返り、起き上がり、立ち上がり、トランスファーの介助を実施できる。
第14回	・杖歩行（実技） 　松葉杖歩行（小振り・大振り・4 点・3 点・2 点 歩行）杖歩行（常時 2 点支持・2 点 1 点交互支持 歩行）を実施できる。
第15回	試　験

学　　科	理学療法学科 1年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法演習Ⅰ
代表講師	加　藤　孝　則　（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	後期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員が、基礎医学（解剖学・運動学・生理学）と各理学療法評価とのつながりについて講義し、見学し、模倣できるようになる				
授業概要	基礎医学（解剖学・生理学・運動学）と理学療法評価とのつながりを学習する。				
到達目標	理学療法評価を見学・体験しながら評価の目的を学習する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験100%				
テキスト・教材等	各教員が指定・用意したもの				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第1回 第2回	・脈拍や血圧などを基礎医学の視点で考えることができる。（解剖学・生理学） ・バイタルチェックの目的を理解する。	加藤孝則
第3回 第4回	・体表から、ランドマークを確認することができる。（解剖学・運動学） ・周径、四肢長を計測する目的を理解する。	次山航平
第5回 第6回	・関節構造と運動との関係性を理解する。（解剖学・運動学） ・関節可動域検査の目的を理解する。 ・基本軸・移動軸の概念を理解する。	明瀬敬二
第7回 第8回	・筋解剖を理解する。（解剖学・運動学） ・徒手筋力検査（MMT）の目的を理解する。	福島芳子
第9回 第10回	・感覚の役割について理解する。（解剖学・生理学） ・感覚検査の目的を理解する。	山内一正
第11回 第12回	・反射のメカニズムについて理解する。（解剖学・生理学） ・反射検査の目的を理解する。	坂崎浩一
第13回 第14回	・脳神経の役割について理解する。（解剖学・生理学） ・脳神経検査の目的を理解する。	池田耕治
第15回	試　験	

学　　科	理学療法学科 １年次	教育 内容	地域理学療法学	科目名	介 護 演 習
代 表 講 師	加　藤　孝　則　（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法業務に携わった経験を持つ教員及び臨床実習指導者や、看護師、介護福祉士から理学療法部門の見学、他関連職種業務の見学、理学療法部内における歩行・移乗介助などを体験、病棟見学及び病棟内にておいて患者様の介助などを体験、患者様との対話を学習する。				
授 業 概 要	リハビリテーションの専門職である理学療法士の介護分野における業務内容について、学内及び臨床実習施設において演習を通して学ぶ。				
到 達 目 標	可能な限り早期に将来自己の職業となる理学療法士の業務内容並びに臨床実習施設に於けるリハビリテーションまた、理学療法部門の位置づけ等を具体的に把握することにより、学内教育に対して積極的に取り組ませることを目的とする。				
成績評価の方法と基準	・ポートフォリオ評価（50%）　・筆記記述試験（50%）				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要綱　他				

期　間	授　業　内　容	担当講師
１週間	期　　間：2022年２月21日（月）～２月28日（月）（学外実習：2022年２月22日、24日、25日） 実施方法：学外実習に向けて、介助法等の学内演習および、学外実習後の復習・まとめ。 学外実習は熊本市内およびその近郊の施設にて、１施設２名～ 10 名程度の学生で実習。 実習内容： １．各施設における理学療法部門の見学 ２．他関連職種業務の見学 ３．理学療法部内に於いて、歩行介助、移乗介助などを体験 ４．病棟見学及び病棟内において患者様の介助などを体験 ５．患者様との対話	学内講師 及び 臨床実習 指導者